

麦圃のカズノコグサ及びカラスノエンドウに対するハーモニー75DF水和剤の除草効果							
【要約】 麦用除草剤 <u>ハーモニー75DF水和剤</u> は、 <u>カズノコグサ</u> の3葉期、 <u>カラスノエンドウ</u> の6葉期までに、10a当たり10g処理すると除草効果が高い。							
筑後分場・普通作物研究室 豊前分場・普通作物・野菜研究室					連絡先	0944-32-1029 09302-3-0163	
部会名	農 産	専門	雑 草	対象	麦 類	分類	普及

〔背景・ねらい〕

水田裏作の麦圃に発生するカズノコグサ及びカラスノエンドウは、従来の除草剤では防除が難しい雑草である。新しい麦用除草剤ハーモニー75DF水和剤は、5葉期のスズメノテッポウに対しては高い除草効果を示すが、カズノコグサ及びカラスノエンドウに対する除草効果は明らかになっていない。そこで、両草種に対する最も効果的な処理時期と処理量を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

①カズノコグサに対するハーモニー75DF水和剤の最も除草効果の高い処理時期は、カズノコグサの3葉期（小麦4～4.5葉期：1月上～中旬）で、処理量は10a当たり10gである（表1）。

②カラスノエンドウに対しては、6葉期（2月中旬）までに、10a当たり10g処理すると除草効果が高い。その他の一年生雑草を含めた生育期処理は、ハーモニー75DF水和剤の方がアクチノール乳剤より除草効果が高い（表2）。

〔成果の活用面・留意点〕

①普通作物雑草防除基準に掲載し、麦圃のカズノコグサ及びカラスノエンドウの防除対策に活用する。

②ハーモニー75DF水和剤の使用に当たっては、普通作物雑草防除基準を遵守する。

〔具体的データ〕

表 1 カズノコグサに対する除草効果 (平成 4年 筑後分場)

試験区	処 理 時 期	処 理 量 g/10a	雑 草 葉 齢 L	残存雑草風乾重 (3月30日) 対無処理区比率 調査
	月・日			%
無処理	—	—	—	100 (152.5g/㎡)
ハーモニ-水和	12.25	5	1.0	19
〃	1. 6	5	2.0	25
〃	〃	7.5	〃	25
〃	〃	10	〃	21
〃	1.19	7.5	3.0	19
〃	〃	10	〃	11
(比)シマジン水和 +カサリン水和	1. 6	50 +200	2.0	31

注) ①麦の播種期：平成 4年12月 1日、品種：シロガネコムギ
 ②麦の播種後にトレファノサイド粒剤 4kg/10aを散布した。
 ③葉害は、いずれの薬剤処理区も「微」程度の生育抑制がみられたが、その後の生育への影響はみられなかった。

表 2 カラスノエンドウに対する除草効果 (平成 5年 豊前分場)

試験区	処 理 時 期	処 理 量 g, ml/10a	雑 草 葉 齢 L	残存雑草風乾重対無処理区比率(5月2日調査)		
				カラスノエンドウ	その他広葉	スズメノテッポウ
	月・日			%	%	%
無処理	—	—	—	100(0.8g/㎡)	100(6.0g/㎡)	100(2.1g/㎡)
ハーモニ-水和	1.24	10g	0.5~3.0	3	10	2
(比)アクチノール乳	〃	150ml	〃	33	32	219
ハーモニ-水和	2.17	10g	4.0~6.0	2	18	2
(比)アクチノール乳	〃	150ml	〃	2	57	95

注) ①麦の播種期：平成 5年11月25日、品種：ニシノチカラ
 ②麦の播種後にトレファノサイド乳剤を散布した。
 ③その他広葉は、ヤエムグラ、ナズナ、ノミノフスマ及びタネツケバナの合計。
 ④葉害は、いずれの区にもみられなかった。

〔その他〕

研究課題名：水稻・麦の雑草防除法確立(筑後)、水稻・麦類新除草剤及び生育調節剤実用化
 予 算 区 分：経常 (豊前)

研究 期 間：平成5年度 (平成4~5年)

研究担当者：福島裕助、松江勇次、中村晋一郎、大隈充子、松尾太、森藤信治

発表論文等：平成4~5年度福岡県農業総合試験場秋冬作試験成績概要書